

令和6年度 公共政策学部 学校推薦型選抜 小論文

○出題意図

一

まず、問一では、コミュニケーションが話し手と聞き手の双方による相互行為であることを理解したうえで、聞き手行為がいかに重要な役割を持っているのかについての論述する力を問うた。また問二では、筆者の考え方に対する評価も含め、自身のこれまでの学びや体験を織り込みながら、「聞く力」を論ずる読解力と表現力を求めた。

二

この問題は、日本人の社会的・政治的な行動や意識に関する各種のデータから、現代日本における民主主義の特徴や傾向を分析し、また課題点を論理的に抽出できるかを問うたものである。まずは、日常生活に不満を覚えている人々は、生活に満足している人々に比べて、政治への参加や民主主義へのコミットメントが低い傾向にあることを正確に読み取ってほしい。それを踏まえた上で、たとえば、本来、公的援助の必要性が高いと考えられる「生活に不満を覚える人々」の声が、政治的に代表されにくい（過小代表となっている）ことや、生活に困っている人に対する政治的・政策的対応が行われづらいといった、日本の政治社会の課題点を発見・指摘できるかを問うている。

三

本問では、近年注目を集めはじめている「関係人口」概念を論じた文章を提示し、受験生の読解力と論述力、また適切な事例を提示できる思考力と表現力の有無を問うた。

問一においては、筆者が文章内で「関係人口」の骨子について説明した複数の箇所を的確に把握し、整理し直せるかを試した。それにより、文章を読解する基礎的な読解力とそれを的確に再構成する論述力を問うた。問二においては、問一で整理した結果をもとに、筆者が展望する地域振興の方向性を自らの観点に引き寄せて思考する力、またそれを具体的かつ実現可能な形で表現する力を試した。